

上下水道産業界の今 展望2019

下水道ヘルスケアで健全に

管路品質評価システム協会技術委員長 越石 博行



当協会では、「視(み)る」「叩(たた)く」「計(はか)る」という定量的な診断技術を中心に、下水道の健康をトータルで管理する「下水道ヘルスケア」という考えを推進しております。

持続可能な下水道の維持管理を行うためには、管の健康状態を客観的、定量的に判断する必要があります。衝撃弾性波検査法を用いることで、今まで残存強度を適切に評価できなかった小口径管について、定量的な強度評価をすることができます。

また、布設当時から現在までの経年劣化を考慮した、より精度の高い耐震診断を行うことが可能となります。

当協会では、衝撃弾性波検査法による定量的な診断技術を中心に、「下水道ヘルスケア」で循環型社会への貢献を目指しております。

水道産業新聞 2019年1月10日号